

# 教育センター通信

## ほど 火床の火の心を紡ぐ

第2号（通算52号）  
平成30年5月29日  
三条市小中一貫教育推進課  
教育センター 発行



三条まつり  
(5月15日)

### 洗練、深化へ ～小中一貫教育の着実な推進を～

教育センター長 捧 信之

「おはようございます！」「おはようございます！！」

朝の学校玄関前、中学生の爽やかな挨拶に、小学生が元気いっぱい挨拶を返します。

今年度も、各学園で小中の子どもたちが一緒に活動したり、合同で授業をしたり、そんな活動が始まっています。そして、そのような姿はすでに「あたりまえ」になりました。

三条市が小中一貫教育に取り組んでから10年、これまで各学園・学校が進めてきた成果が、子どもたちの溢れる笑顔、落ち着いた学習の姿に表れてきています。今年度は、小中一貫教育を更に洗練、深化させていく年となります。では、洗練、深化とは具体的にはどのようなことを目指すのでしょうか。一つは、「学園としてのつながり」をいっそう推進することです。学園としての共通の目標を意識して取り組んでいくこと、学園全体で一人一人の子どもを大切にしていくこと、それがすべての教育活動の基盤となります。もう一つは、「授業改善」です。小中一貫教育推進の中核は、やはり「日々の授業がよくなる」ことではないでしょうか。子どもたちが最も長い時間を過ごしている授業、授業の中で子どもたちは生活しています。9年間の学びを見通しながら「その日、その1時間」をどう充実させていくか。その積み重ねが、子どもたちの大きな成長となって花開きます。「主体的・対話的で深い学び」を具現するには、何よりその子自身が「自分の意志」で学んでいくことが大切です。そんな子どもの学びを支えていただければと思います。ほんの少しの授業改善、その積み重ねが小中一貫教育を洗練、深化させていくのです。

# オーダーメイド訪問

各校からの様々な要望に応える「オーダーメイド訪問」が3年目を迎えました。昨年度は延べ104回のオーダーを受け、各校・各学園に指導主事が訪問させていただきました。

今年度もすでに要請をいただいております。各校・各学園においてぜひご活用ください。

## 要請から 訪問までの流れ

- ① 学校は、学園担当指導主事、または要請する教科担当指導主事に大まかな内容、希望日等を伝える。
- ② 実施の可否、実施日、訪問を担当する指導主事の決定。
- ③ 学校は、訪問を担当する指導主事に内容の詳細を伝える。
- ④ 訪問。 ※学園単位の訪問も可能です。

## 支援スタッフと担当教科

### <教育センター指導主事>



捧教育センター長  
道徳・社会



土佐統括指導主事  
理科



小林指導主事  
英語・外国語



武井指導主事  
国語



遠藤指導主事  
特別支援教育  
・保健体育

高田囑託指導主事  
算数

島田囑託指導主事  
社会



星野囑託指導主事  
算数



渡邊囑託指導主事  
理科



長谷川囑託指導主事  
理科



青木指導主事  
社会・生活・道徳

### <指導担当指導主事>



熊倉統括指導主事  
社会



小田指導主事  
保健体育



田村指導主事  
社会・特活



生方指導主事  
特別支援教育  
・社会

## 今年度の研修の重点と学習指導要領改訂の理念

小中一貫教育では、「子どもの学習意欲を育む」ことが大きな目的の一つです。

4月19日の「学園長・推進リーダー合同会議」、4月25日の「小中一貫教育推進マネジメント研修」で、教育センターが取り組む「今年度の研修の重点」をお伝えしました。以下の「子どもの学習意欲を育む3つの方策」の充実です。

- ① ◎学習問題のある授業
- ② 9年間の学びのつながりを意識した授業づくり
- ③ 乗り入れ授業



<4/19 合同会議の様子>

さて、今年度から新学習指導要領の移行期が始まりました。移行期では、新学習指導要領の理念をしっかりと理解した上で、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善や「カリキュラム・マネジメント」を行っていく必要があります。このことを、教育センターがお示した「今年度の研修の重点」と重ね合わせて述べたいと思います。

### 『主体的・対話的で深い学び』を目指した授業改善と「◎学習問題のある授業」

今回の学習指導要領の改訂は、「学び手中心の視点」で構成されています。子どもの目線に立ちながら、学び手がどのように学んでいけばよいかを考えることなくして授業改善は実現しません。子どもたちの目線に立つならば、1時間の授業の「導入」で、いかに子どもが自分事の「問い」（学習問題）を意識できるか、ということが大切です。「◎学習問題」を子どもと一緒につくる過程そのものが、子どもの目線に立つ、子どもを大事にするということなのです。

この「◎学習問題」が自分事であれば、解決過程での対話的な学びも成り立ちます。グループ学習という形式だけを整えても、対話的な学びは成立しません。その際、前向きに活発に話し合うことだけではなく、話し合う内容が教科目標の達成につながるものかを吟味することが深い学びの具現につながります。

「◎学習問題のある授業」は、子どもの目線に立った、子どもの主体性を育てる授業です。多くの先生方から大切にいただいていることですが、その意義を改めて考え直していきたいと思います。

### 「カリキュラム・マネジメント」と「9年間の学びのつながりを意識した授業づくり」、 「乗り入れ授業」

カリキュラム・マネジメントは何を目的に行うのでしょうか。言うまでもなく学校目標、そして、学園の目指す子どもの姿の具現のためです。そうしたことを考えると、小中一貫教育という視点でのカリキュラム・マネジメントの大切さが認識できます。

「9年間の学びのつながりを意識した授業づくり」「乗り入れ授業」では、学びのつながりを意識した日々の授業におけるちょっとした工夫を集積・蓄積し、指導計画上に位置付けることが大切です。このことをPDCAサイクルにのせ、何年かをかけながら学園の特色ある小中一貫教育カリキュラムを構築することにつながります。

「乗り入れ授業」は、そのための先生方の意識改革に大きな役割を果たします。実際に異校種の授業を体感することで、実感として得られるものがあるはずです。この実感を、日々の授業改善や指導計画の改善に活かしていくことが大切と考えます。

教育センターでは、上記のことを大切にしながら今年度の研修を行っていきます。みなさんの参加、オーダーメイドの要請をお待ちしています。

# 子どもの科学教室「物理教室」を開催

今年度最初の「子どもの科学教室」として「物理教室」を5月12日(土)、13日(日)の両日、栄体育館の多目的室を会場に開催しました。今回は「電気と磁石のひみつをさぐる物理教室」というテーマです。主な内容を紹介します。

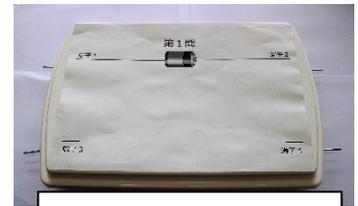
1. 配線はどうなっている？～ブラックボックス回路を調べる～
2. モーターが回る仕組みは？～コイルモーターの製作～
3. 磁石のコマが回り続ける仕組みは？～リードスイッチゴマの製作～

これらをとおして、回路や磁石の復習、電流が巻いたエナメル線を磁石にすること、コイルモーターの仕組み、電磁石により磁石のコマを回転させ続ける仕組みを学習しました。子どもたちは、実験や工作をとおして楽しく学ぶことができたと思います。

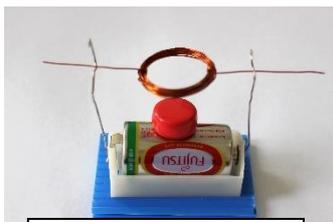
子どもたちの感想を紹介します。

- ・電気や磁石を使って分かりやすい説明で、とてもよかった。  
 工作もとても楽しかった。
- ・電気はあまり好きではなかったけど、実験したのが楽しかった。

先生方も、ぜひ、活動支援スタッフとして参加され、子どもたちと一緒に楽しく活動していただければありがたいと思います。



ブラックボックス回路



コイルモーター



リードスイッチゴマ

## 学園の取組紹介

三条おおじま学園職員総会『春の陣』 4月25日(水)

学園職員全員が一堂に会して、今年度の学園小中一貫教育について共通理解を図りました。

全体会では、学園長(須頃小:竹内校長先生)から「これまでの活動を少し工夫することが大切」という方針が話されました。

続く各種部会では、それぞれの活動の具体的な打ち合わせが行われ、また、重点教科部会では、乗り入れ授業の計画を立てました。

今年度の学園の新規事業は次の4つです。

- ① 6年生合同修学旅行(佐渡)
- ② 小学校合同持久走大会
- ③ 学園音楽祭(会場:大島中)
- ④ 小学校合同学習発表会



部会の様子(大島小 ランチルーム)

